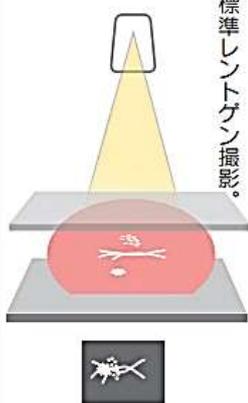
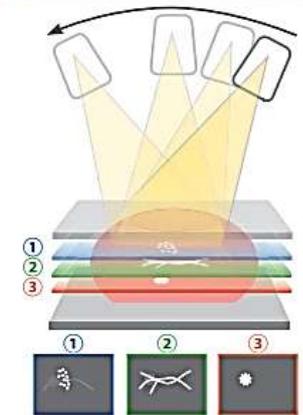


乳がん 高度検診・治療センター

NEW ーす NO.27

2016.8

3Dマンモグラフィ（トモシンセシス）をご存知ですか？

<p>従来のマンモグラフィ</p>  <p>標準レントゲン撮影。</p> <p>乳腺や組織の重なりにより、発見しにくい病変がありました。 ※ 1.6mGy の被ばくとなります。</p>	<p>トモシンセシス（3Dマンモグラフィ）撮影</p>  <p>X線管が移動しながらX線を照射して撮影。撮影した画像データを元に1ミリ間隔の乳房の断層画像を作成。</p> <p>トモシンセシス撮影では3D断層像を作成して表示。断層画像を作成することで、これまでは乳腺に隠れて発見しにくかった病変や乳がんも発見しやすくなります。 ※トモシンセシスを加えることで、合計 2.6mGy の被ばくとなります。</p>
---	---

乳がんの診療や検診にマンモグラフィが必要不可欠であることは今さら繰り返すまでもないと思います。そのマンモグラフィ画像を3Dで撮像する3Dマンモグラフィ（正しくはデジタル乳房トモシンセシスと呼びます）が今注目を集めています。

トモシンセシスはマンモグラフィの一種で、乳房の断層画像を作成し、乳房全体を1mm間隔で多数の薄い断層像として表示する技術のことです。

マンモグラフィの弱点のひとつに、40歳代などでの高濃度乳腺（デンスブレスト）で乳がんを見つけにくいことが挙げられます。乳腺は周辺の脂肪組織に比べてX線の透過性が低くマンモグラフィでは白く写ります。高濃度乳腺とは、その名の通り乳腺密度が高く、乳腺全体が白く写ります。がんも白く写るため「雪原のなかの白うさぎ」と例えられる

ように、高濃度乳腺ではがんを見つけにくいのです。

トモシンセシスを利用することにより高濃度乳腺などで、乳腺の重なりによるがんの見落としを減らすことができます。また、マンモグラフィでの重要ながんの所見として腫瘍（しこり）以外に石灰化（カルシウムの沈着）がありますが、石灰化所見についてはトモシンセシス追加による利点はありません。トモシンセシスを撮影する場合、通常のマンモグラフィも必ず撮影しますので、トモシンセシス撮影の分だけ被ばくが多くなりますが、許容できる範囲内の線量です。

当院では2014年8月トモシンセシス搭載デジタルマンモグラフィを導入し、標準撮影ののち必要と判断された場合にトモシンセシス撮影を追加しています。

さらに本年5月からはトモシンセシス撮影を健診センターやドック検診にオプションとして取り入れていますので希望される方は申し出ください。ただし、標準撮影なしでトモシンセシス撮影のみのご要望にはお応えできません。



さらに詳しいことをご存知になりたいことがありましたら、乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865



KAZUKA